

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700018		
法人名	有限会社 あい케어		
事業所名	グループホーム 恵那苑 A館		
所在地	岐阜県恵那市大井町字丸池2714-549		
自己評価作成日	令和5年8月5日	評価結果市町村受理日	令和5年10月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700018-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700018-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年8月31日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑内の畑で利用者様と一緒に収穫した野菜や、職員の自宅で収穫した新鮮な野菜を利用し、季節や行事に合わせたメニューを提供し、食べる事の楽しみを大切にしています。コロナ禍で思うように外出が出来ない為、苑内で気分転換が出来る様、畑の手入れをしたり、庭でお茶を飲んだりと工夫をしています。年配の職員が多いですが、若い職員にはない気付きや見守り、きめ細かい支援が出来ていると思います。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今春(令和5年5月)、利用者全員が新型コロナウイルスに感染するという試練に見舞われた。これまで、感染防止策を徹底してコロナウイルスのホーム内侵入を防いでいただけに、法人代表や管理者、職員に至るまで、大きなショックを受ける結果となった。その教訓を活かし、コロナ感染症が5類に変更されても、感染に対する警戒を緩めていない。地域交流や外出支援に影響が出ているが、代替策を講じて利用者が閉塞感を持つことがないように配慮している。周りを緑の山々に囲まれ、自然豊かな地に立地していることから、おにぎりを作って庭で食事を摂り、外出気分を満喫することもある。隣地にソーラー施設の建設計画が持ち上がり、地域住民と連携を図って対応している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:8,9) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム、玄関等目の届く所に掲げ、いつでも意識・共有できるようになっていきます、更にミーティングでどの様に実践に繋げていくかを話し合い取り組んでいます。	利用者個々を尊重することを柱とした理念を掲げており、ミーティング時に話し合うなど、職員への理解・浸透に努めている。玄関や事務室、各ユニット内にも理念が掲示してある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事がすべて中止となり、交流できる機会がありませんでしたが、今年は花火大会があり利用者様と花火を楽しむことが出来ました。	今春、利用者全員が新型コロナウイルスに感染するという事態に陥った。そのこともあって、5類への移行後もコロナに対する警戒態勢を緩めていない。隣地にソーラー施設建設の話があり、地域住民と連携して対応している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	恵那苑施設内での運営推進会議はコロナ禍で出来ませんでしたが、包括、市役所、自治会、ご家族様に現状報告を文章で報告、質問・ご意見等返信を頂き業務に活かしています。	過去1年間、すべて書面での運営推進会議の開催となった。会議資料に利用者の写真を多用した「恵那苑だより」を添付し、ホームの活動を詳細に伝えている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市から書面にて意見や質問を頂いたり、行政との互いの協力やケアサービスの向上、周知に取り組んでいます。	コロナ蔓延時は、県や市の担当者と連携をとって対応した。地域包括支援センターを訪問し、運営推進会議の案内状や議事録を届けている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員周知し、県主催の研修に参加したり、ミーティング、運営推進会議でも取り上げ、ヒヤリハットや事例を参考にし、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。	2ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、運営推進会議で報告することとしている。現在は書面開催のため、運営推進会議の議事録に記載して報告している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加し内容を共有し、マニュアル、事例等も参考にしながらミーティングで話し合いをし防止に努め、常に職員は利用者に対し気配りしています。	県主催の権利擁護に関するリモート研修に、法人から3名が参加した。研修に参加した職員が講師となり、ミーティングで伝達研修を行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には制度について理解してもらい、個々に合わせて対応し、必要に応じ活用していこうと思っています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者または職員立ち会いの下、家族へ丁寧に話をさせていただいています。例を挙げ質疑応答で双方納得した上での契約を行っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望をお聞きし、ご家族様にはケアプランの返信や、電話で生活の様子をお伝えし、意見を頂いたりして、ケアプランや運営に反映出来る様、努めています。	利用者全員が新型コロナウイルスに感染するという事態の反省に立ち、家族面会も厳しく制限している。マスク着用、検温・体調確認のうえ、玄関にて15分間の面会を認めている。その際に、職員が家族から意見や要望を聞き取っている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で全員ミーティングは難しく、代表者が管理者、職員から個別に話を聞いたり、管理者が職員の意見を代表者に伝えたりと、積極的に意見交換をしています。	コロナ禍により、職員意見の収集は個別対応となっている。機会を捉えて法人代表が個別で面談を行っており、管理者は日々の支援の中で職員意見を聞き取っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表、管理者は職員の労働状況を把握し、人事考課表を参考に、話し合いをしながら出来る限り、就業環境の改善に努めています。	職員の安定的な雇用を実現するため、働きやすい職場づくりを目指している。子育て中の職員には、有給休暇を優先的に認め、出身地が遠隔地(四国)の職員には、長期の休暇を認めている。	職員自らが将来の姿を描けるようなキャリアパスを構築し、目標管理と人事考課制度の導入による公正な処遇(人事管理)を実現するため、透明性のある人事制度の研究を始められたい。
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修には参加できるようシフトを調整しています。研修後、資料を他の職員に読んでもらったり、内容を報告する機会を作って全職員に周知しています。	法人代表や管理者が、支援の現場に入ってOJTを行い、職員の育成を図っている。コロナ禍によって各種の外部研修がリモート対応になっており、職員が研修に参加しやすくなっている。	勤続4年目を迎えている外国にルーツを持つ職員が、母国の家庭の事情により退職することとなった。彼女に対する育成の経験を無にすることなく、今後の外国籍職員の育成に役立てられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等を行っています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを見極めて、出来ることは本人のペースに合わせてやって頂くようにしています。生活の場なので、こちらから声掛けしお手伝いをお願いすることもあます。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から思いを聞きとり、管理者・ケアマネ・職員、時には家族と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。	利用者の思いや意向は、「事前情報」のシートに記載されており、介護計画作成時の拠りどころとなる。自ら意向を表出できない利用者については、代弁者として家族から意見を聞き取っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ご本人、ご家族からも話を聞き、随時、見直しを行いケアプランを作成しています。	介護計画は、短期3ヶ月、長期6ヶ月の目標設定を基本として作成されている。利用者の意向を叶える介護計画を目指しており、「ホームの外へ出たい」利用者には、「回覧板を持っていく」目標が設定されている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・送りノート等、記録を資料としケアプランを作成しています。ミーティングでも利用者一人一人について情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。	利用者一人ひとりに「ケース記録」(日報の綴り)があり、支援に関する情報は個別に管理されている。一定期間を経過した記録類は「ケース記録」から外され、事務室で保管されている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせ、柔軟に対応しています。家族から要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様に心掛けています。	家族の要望には、可能な限り対応するよう心掛けている。退居した元利用者のその後の様子も気にかけて、他事業所へ移行した利用者への面会を計画している。ただ、コロナ禍によって実現には至っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為に地域のイベント等が中止となつてしまい大変残念ですが、利用者の心身状態を把握し、外出が出来なくても楽しく過ごせるようスタッフ皆で工夫しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医のままか、月2回訪問診療してもらえる提携医かをご家族に決めて頂きます、歯科等もご家族からの希望があれば支援しています。	かかりつけ医の決定は利用者サイドの意向を優先しているが、ほとんどがホーム協力医(2医療機関)を選んでいる。両医療機関ともに訪問診療が可能であり、新型コロナウイルス蔓延時は協力的な対応があった。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者・ご家族様の希望に合わせた対応が出来るよう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。	利用者が入院した場合には、「ホームに戻って来られるか否か」が大きな問題となる。家族も同席して病院のケースワーカーと打ち合わせを行い、退院の見込みがあれば、規定を超えて2~3ヶ月程度は待つことにしている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には終末期のあり方について、家族・管理者・看護師・主治医・ケアマネで、場合によっては、ターミナルも視野に入れ話し合いをし、出来る限り家族の希望に添える様努めています。	「看取り及び医療連携体制に関する指針」があり、利用開始時に説明して利用者・家族の同意を得ている。条件が揃えば看取りも可能であり、これまでに2件の看取り事例がある。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや災害対策マニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングで対応の確認もしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回以上行っています。ハザードマップを利用し、地域の方と協力し対応出来るよう自治会との連携をとっています。	ハザードマップ上では、災害警戒無指定地域である。しかし、年間2度の防災訓練は欠かさず実施し、職員、利用者ともに防災意識を高めている。運営推進会議でも、地域との協力体制が話題となっている。	停電対策が未整備であり、検討・実施が急務となっている。作成中であるBCP(事業継続計画)の完成が待たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら、穏やかに過ごして頂けるようコミュニケーションをとり、個人に合わせたケア・言葉かけを心掛けています。	プライバシーの保護や個人情報の漏洩防止に努めている。運営推進会議の議事録に添付する「恵那苑だより」に掲載される利用者の写真には、目の部分がマスクングしており、個人を特定できないよう配慮している。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から希望や思いをくみ取り、色々な場面で自己決定出来るような状況を作ったり、声掛け・見守り等支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れの中で、一人一人の体調や気分配慮・尊重し、穏やかに過ごして頂けるようなケアを心掛け支援をしています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様に、献立は季節感や昔からのある料理を取り入れ、利用者と相談してメニュー決めていきます。朴葉寿司やピザ等、ご自分でトッピングしてもらうこともあります。	畑で採れる野菜も活用し、3食手作りの食事を提供している。女性職員のご主人がボランティアで畑作業を行い、カボチャやトマト、キュウリ、じゃが芋、さつま芋等々が収穫できた。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものをバランス良く献立し、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用い、摂取量も把握しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、出来る方は自身で洗って頂き、必要に応じて介助しています。週に1度は義歯を預かり洗浄剤を使用しています。場合によっては歯科医に受診をしています。	自身でできない利用者は、職員の手を借りて口腔ケア(歯磨き)を行っている。3食の後だけでなく、おやつを食べた後にも口を漱ぐ利用者がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、時間をみながら早めに声掛け誘導をしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の目安の曜日は決めています、個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂き、楽しくくつろげる時間になるよう心掛け支援しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが乱れない様に注意し、日中でも様子をみて休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法・容量を理解し、翌日1日の分を夜勤者がセットし、再度の内容を確認、服用し飲み込むまで見守りし、薬の変更や追加の場合は受診記録に記載し申し送りをしています。	薬は、ホームで保管することを原則として管理している。誤薬事故を防止するため、厳格な施薬のルールを定めて支援している。どの工程も、ダブルチェックを基本としている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした、家事・レクの役割をお願いしたり、トランプ・体操・畑仕事・パズル等各種レクを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。	利用者の喜びや生きがいを引き出すために、利用者の力量に合った役割を与えている。畑作業や洗濯物(干し、たたみ)、食事に関する手伝い(野菜の前処理、テーブル拭き、トレーの拭き上げ等)がある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出をお断りしており、外出等は出来ませんが、天候と体調に配慮しながら庭でのお茶会や施設でのイベント等を工夫行っています。	コロナの感染状況を考慮して外出支援を行っている。春の花見は、利用者を分散して恵那峡に出かけた。外出気分を味わうために、おにぎりを作って庭で食べることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為、利用者自身が買い物に出掛ける事が出来なくなりましたが、職員が事前に聞き取りをしたり、好みを把握し、買物に行っています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、ズームを利用したりリモート面会や、電話で話ができるようにしています。手紙はご自分で書ける方は支援し、年賀状・暑中見舞い等を塗り絵にし、近況を伝えるようにしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・湿度・温度管理には湿度計等を置いて管理をし、快適に過ごして頂けるようにしています。日常生活の中で様子を見ながら、生活環境を整えて行ける様、心掛けています。	新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたが、ホームでは警戒態勢を緩めていない。よって、共用空間への立入りを自粛した。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいたり、畳のスペースでテレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者それぞれにくつろげる環境を作れるよう心掛けています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からお話を聞き、落ち着いて過ごせる環境作りを心掛けています。利用者の大事にしてきた事や物をお部屋に取り入れる様、出来る限り支援しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、残存能力を把握し、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700018		
法人名	有限会社 あい케어		
事業所名	グループホーム 恵那苑 B館		
所在地	岐阜県恵那市大井町字丸池2714-549		
自己評価作成日	令和5年8月5日	評価結果市町村受理日	令和5年10月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑内の畑で利用者様と一緒に収穫した野菜や、職員の自宅で収穫した新鮮な野菜を利用し、季節や行事に合わせたメニューを提供し、食べる事の楽しみを大切にしています。  
 コロナ禍で思うように外出が出来ない為、苑内で気分転換が出来る様、畑の手入れをしたり、庭でお茶を飲んだりと工夫をしています。  
 年配の職員が多いですが、若い職員にはない気付きや見守り、きめ細かい支援が出来ていると思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700018-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2191700018-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年8月31日		

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム、玄関等目の届く所に掲げ、いつでも意識・共有できるようになっていきます、更にミーティングでどの様に実践に繋がっていくかを話し合い取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域の行事がすべて中止となり、交流できる機会がありませんでしたが、今年は花火大会があり利用者様と花火を楽しむことが出来ました。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	恵那苑施設内での運営推進会議はコロナ禍で出来ませんでしたが、包括、市役所、自治会、ご家族様に現状報告を文章で報告、質問・ご意見等返信を頂き業務に活かしています。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で市から書面にて意見や質問をを頂いたり、行政との互いの協力やケアサービスの向上、周知に取り組んでいます。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は全員周知し、県主催の研修に参加したり、ミーティング、運営推進会議でも取り上げ、ヒヤリハットや事例を参考にし、知識の向上と理解に役立てるよう取り組んでいます。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等にも参加し内容を共有し、マニュアル、事例等も参考にしながらミーティングで話し合いをし防止に努め、常に職員は利用者に対し気配りしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員には制度について理解してもらい、個々に合わせて対応し、必要に応じ活用していこうと思っています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず、代表者と管理者または職員立ち会いの下、家族へ丁寧に話をさせていただいています。例を挙げ質疑応答で双方納得した上での契約を行っています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは普段の会話から要望をお聞きし、ご家族様にはケアプランの返信や、電話で生活の様子をお伝えし、意見を頂いたりして、ケアプランや運営に反映出来る様、努めています。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナ禍で全員ミーティングは難しく、代表者が管理者、職員から個別に話を聞いたり、管理者が職員の意見を代表者に伝えたりと、積極的に意見交換をしています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表、管理者は職員の労働状況を把握し、人事考課表を参考に、話し合いをしながら出来る限り、就業環境の改善に努めています。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市での研修には参加できるようにシフトを調整しています。研修後、資料を他の職員に読んでもらったり、内容を報告する機会を作って全職員に周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等を活用し、他の事業者との意見交換等を行っています。他のグループホームとの交流の場がもっと多くあれば良いと思います。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ること、出来ないことを見極めて、出来ることは本人のペースに合わせてやって頂くようにしています。生活の場なので、こちらから声掛けしお手伝いをお願いすることもあます。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で利用者から思いを聞きとり、管理者・ケアマネ・職員、時には家族と話し合いをし、希望に添えるよう誠意をもって対応するよう努めています。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の中で個々の特徴を把握し、ご本人、ご家族からも話を聞き、随時、見直しを行いケアプランを作成しています。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報・送りノート等、記録を資料としケアプランを作成しています。ミーティングでも利用者一人一人について情報を共有し、介護計画の見直しについて話し合いをしています。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況や要望に合わせ、柔軟に対応をしています。家族から要望があれば、できるだけ事は相談に応じ行う様に心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの為に地域のイベント等が中止となつてしまい大変残念ですが、利用者の心身状態を把握し、外出が出来なくても楽しく過ごせるようスタッフ皆で工夫しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、かかりつけ医のままか、月2回訪問診療してもらえる提携医かをご家族に決めて頂きます、歯科等もご家族からの希望があれば支援しています。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は相談員や家族と連絡を取り合い、利用者・ご家族様の希望に合わせた対応が出来るよう連携に努めています。退院後はサマリー等を参考にその後のケアに活かせるよう心掛けています。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には終末期のあり方について、家族・管理者・看護師・主治医・ケアマネで、場合によっては、ターミナルも視野に入れ話し合いをし、出来る限り家族の希望に添える様努めています。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルや災害対策マニュアルを作成しており、職員が判る場所に設置しています。ミーティングで対応の確認もしています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に1度の消防職員訪問による訓練と他に1度の自主訓練、合計年2回以上行っています。ハザードマップを利用し、地域の方と協力し対応出来るよう自治会との連携をとっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重しながら、穏やかに過ごして頂けるようコミュニケーションをとり、個人に合わせたケア・言葉かけを心掛けています。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から希望や思いをくみ取り、色々な場面で自己決定出来るような状況を作ったり、声掛け・見守り等支援しています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れの中で、一人一人の体調や気分配慮・尊重し、穏やかに過ごして頂けるようなケアを心掛け支援をしています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめる様に、献立は季節感や昔からのある料理を取り入れ、利用者と相談してメニュー決めています。朴葉寿司やピザ等、ご自分でトッピングしてもらうこともあります。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬のものをバランス良く献立し、量や形態については個々に対応する事で栄養の確保に努めています。水分補給は食事・お茶の時間、それ以外の時間でもスポーツドリンクなどを用い、摂取量も把握しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し、出来る方は自身で洗って頂き、必要に応じて介助しています。週に1度は義歯を預かり洗浄剤を使用しています。場合によっては歯科医に受診をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、時間をみながら早めに声掛け誘導をしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ある程度の目安の曜日は決めています、個々の体調や要望に合わせて介助し、ゆったりと湯船に浸かって頂き、楽しくくつろげる時間になるよう心掛け支援しています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活のリズムが乱れない様に注意し、日中でも様子をみて休んでもらうようにしています。休息、入床、起床時間は利用者の希望を尊重し、支援をしています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法・容量を理解し、翌日1日の分を夜勤者がセットし、再度の内容を確認、服用し飲み込むまで見守りします、薬の変更や追加の場合は受診記録に記載し申し送りをしています。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かした、家事・レクの役割をお願いしたり、トランプ・体操・畑仕事・パズル等各種レクを、皆さんそれぞれに楽しめる様、支援しています。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、外出をお断りしており、外出等は出来ませんが、天候と体調に配慮しながら庭でのお茶会や施設でのイベント等を工夫行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為、利用者自身が買い物に出掛ける事が出来なくなりましたが、職員が事前に聞き取りをしたり、好みを把握し、買物に行っています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身の部屋で、ズームを利用したりリモート面会や、電話で話ができるようにしています。手紙はご自分で書ける方は支援し、年賀状・暑中見舞い等を塗り絵にし、近況を伝えるようにしています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調・湿度・温度管理には湿度計等を置いて管理をし、快適に過ごして頂けるようにしています。 日常生活の中で様子を見ながら、生活環境を整えて行ける様、心掛けています。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでくつろいでいたり、畳のスペースでテレビを観ていたり、お部屋で休んだり、利用者それぞれにくつろげる環境を作れるよう心掛けています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族からお話を聞き、落ち着いて過ごせる環境作りを心掛けています。利用者の大事にしてきた事や物をお部屋に取り入れる様、出来る限り支援しています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯干し、畑仕事、数字計算、体操など、残存能力を把握し、一人で出来ることは職員が見守り、清潔で安全な生活空間になるよう、工夫し確保しています。		